元戦車中隊長の模型部屋 第6回

今年の夏も暑かったですね。みなさまはいかがお過ごしでしたか?私は秋に家族 旅行を計画しているので節約の夏季休暇でした。

最高気温40.3度を記録したあの日でもランニングして心身を鍛えたり、娘達と料理したり・・・もちろん模型も作ってましたが。最新キットだけでなく、過去に作っていた作品を手直ししたりと、なかなか充実した夏でした。

さて今回はソビエト連邦の・・・



キットはタミヤさんです。発売されたのはかなり前のキットになります。しかも作ったのはT-34が私が20代、SU-122が30代の時です。若かりし自分と会話しながら手直ししました(笑)

お気づきかもしれませんが、今回から自宅の模型制作机の上で撮影してみました。以前もこのような形で紹介させていただいてましたが、初心に帰り生活感漂う 風景も併せてお楽しみいただければと思います。

さて、T-34は対機甲戦闘を目的とする戦車、SU-122は地域制圧を行う 自走砲であり、使用目的が違います。





キットはストレート組みで、車体及び砲塔側面の歩兵乗用取っ手は真鍮線で作り直しています。ウェザリングはこれでもかというくらいに施しました。実際の戦車は泥だらけになりますし、あとはフェンダーなどを曲げてバトルダメージを表現しました。

T-34はソ連の主力戦車で様々な派生型もあり、それらを含めて10万両製造されたのだとか。未だに中東で使用されているようで、ニュース映像でもたまに見かけることがあります。



車体後面には跳ね上がった泥をこびり着かせました。少しオーバーだったかもしれませんが。



転輪ゴムは激しい戦闘走行により欠けたり裂けたりしますので、私の戦車部隊での経験をもとに、それらしくダメージ表現で再現してみました。



次いでSU-122です。先述のT-34の車体に牽引砲の122ミリ榴弾砲を 搭載したものです。戦車ではないので、乗車しているのは砲兵となります。





東ヨーロッパの泥濘地を疾走するSU-122をイメージし、泥だらけの車体下部、乗下車で付着する泥、風雨で発生する錆とその流れ落ちる様、その過酷な環境下で任務にあたる砲兵を表現してみました。まだまだ満足できるものではないのですが・・・ちなみに、ソ連の戦闘車両には無線機が装備されたものが少なく、手旗や手信号で指揮をしていたとか。ソ連軍の苦労がしのばれます。





おや!?進軍を続けるSU-122の通過するその横には、 洗濯やお茶の準備をするソビ エト連邦の女性兵士が!(笑)

こんな映画のようなシーン が再現できるのも模型の楽し みですよね。

さて、戦車ばかりも飽きる と思いますので、趣向を変え 変わった模型も紹介しますね。



キットは I CM社のもので、下着を干すもの、サモワールでお茶を準備するもの、故郷に手紙を書くもの・・・生活感がどっぷり漂うセットです。







なかなか女性の顔を可愛く塗ることができず、長女からアイラインの描き方などを教えてもらいながら頑張ったのですが…

女性兵士の他に蓄音機やロシアのお茶文化を知ることになったサモワール、そして女性下着!普段作ることのないキットを楽しませていただきました。まさにこのキットは女性下着に女性兵士が付いてきたといっても過言ではありません(笑)ほのぼのしたところで、今回はここまで。

